



あゆみ

青梅市立河辺小学校 学校便り
No. 675 令和6年3月25日
青梅市立河辺小学校

巣立ちの時 ～卒業式式辞より 「レジリエンス」～

3月22日。第53回卒業式を無事に挙行することができました。83名の卒業生は一人一人、将来への想いを力強く発表し、とても立派な態度で卒業証書を受け取り巣立っていきました。5年生は在校生代表として、こちらも立派な態度で卒業式を支えました。

私が卒業式で「校長式辞」として卒業生に送った言葉の一部をご紹介します。

(前略)みなさん六年生は、私が出会った三年生のころから、そのパワフルさと明るさ、前向きさと行動力から、ついやりすぎてしまったり、調子に乗ってしまったりして、先生方から注意を受けたり叱られたりする場面が多かったように思います。でも、皆さんは叱られ、注意されて、その時には「シュン」となっても、反省して自分たちの失敗や上手くいかなかったことを改善して、失敗を力に変えて、本番となる行事や活動など多くの場面で、高い力を発揮していました。

これは、実はこれからの社会を生きていくための大きな武器になります。

皆さんが活躍するこれからの時代は「予測不能な社会」と言われています。現に、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起きて世界中が混乱するなどということは、四年前までは誰も想像していませんでした。

変化が激しく、先の見通しが見えづらい社会を生きていく中には、失敗してしまうことや上手くいかないことがあるのは当然です。壁にぶつかって悩んだり困ったりすることもあるでしょうし、気持ちが落ち込んでしまうこともあるでしょう。そうした時に自分の気持ちを自分自身でついたり、立て直したりする力が大切です。

こうした「困難をしなやかに乗り越え、回復する力」のことを「レジリエンス」と言います。レジリエンスとは「回復力」や「立ち直る力」とも訳される英語をもとにする言葉で、最近では現代社会を生きるために最も大切な力の一つと言われています。

皆さんが河辺小学校で培った、失敗を恐れずにチャレンジする力、素直に反省し改善しようと努力する姿勢、落ち込むことがあっても「また頑張ろう」と気持ちを回復させる「しなやかな強さ」、これら「レジリエンス」をさらに大きく伸ばし、中学校、そしてその先への世界で大きく活躍していくことを心から期待しています。(後略)

卒業生、そして在校生も、「失敗できる強さ」「失敗から学ぶ力」「折れない心」等々、「レジリエンス」を高めて、未来を力強く生き抜いてほしいと心から願っています。

本年度の教育活動も今日の修了式で最後となります。コロナ禍が一段落し、新たな活動を模索した1年となりましたが、PTA・保護者・地域の皆様のご理解・ご協力のおかげで、有意義な活動を積み重ねることができました。ありがとうございました。

子供たちも本当によく頑張りました。通知表をもとに1年間の成長を振り返り、新学年への期待の気持ちを高めていただけたらと思います。

令和6年度も、教育活動へのご理解・ご協力の程、どうぞよろしく願いいたします。